

将来の方向カードを分類

視点

あるべき姿

人のつながり

市民間の交流と活動や地域力に関する視点

子ども

市民間交流

行政

カード内容 (人のつながり):

- 大学生と子どもとの世代間交流
- ボランティアしたい人とふれあいを求める人をつなぐ
- 誰もが参加しやすい負担のかからない自治会の運営
- まちなかの賑わいのような場を作り、人々の繋がりを促す
- まちの賑わいのような場を作り、人々の繋がりを促す
- いろいろなパワープラザの人が、共生されている
- 学びや出会いにより、自分と異なるものを知り、理解、共感する
- コミュニケーションのとれる子
- 公園と公園の仕組み
- 市民が交流を深めながら交流を促されるように
- 市民全体に知る機会を提供する

カード内容 (行政):

- 市民と市職員が気軽に話し合える関係性/場をもつ
- 市職員は市民の声を聴き、市民は市を理解する姿勢を持つ
- 行政と住民の距離をつなぐ開かれた自治会にする

暮らしやすさ

安全・安心や住環境、生活利便性に関する視点

安心・安全

子育て

多様性

利便性

景観

カード内容 (暮らしやすさ):

- 古いものを残しながら安全・安心・暮らしを支える
- 大人に世界のこと、精神・活動が重視のことを伝える
- 誰もが楽しめる、子どもが来たいくなる子育て
- 大人と交流しながら地域で子どもが育ち、その子どもたちが大人になつたら地域の子も育てる
- 賑わいや高齢者の居場所を拡げて、居場所や居場所の確保など活躍できる場がある
- 文化の共生でアーティストが集まるなど、多文化の人が暮らしやすいまち
- 誰もが公共施設を便利に利用できる
- 移動手段の充実で、地域内を移動できる便利に
- 市の広域力を活かし、市民と市がまちづくり情報を共有する
- 色の統一、アースカラー
- 市民の感性と行動を促し、育て、自然やまちを大切にしながら暮らしやすいまち
- 景観に合ったサインやデザインのマッシュアップで新しいまちを作る

手書きメモ (暮らしやすさ):

- ① 古いものを残しながら安全・安心・暮らしを支える
- ② 大人に世界のこと、精神・活動が重視のことを伝える
- ③ 誰もが楽しめる、子どもが来たいくなる子育て
- ④ 大人と交流しながら地域で子どもが育ち、その子どもたちが大人になつたら地域の子も育てる
- ⑤ 賑わいや高齢者の居場所を拡げて、居場所や居場所の確保など活躍できる場がある
- ⑥ 文化の共生でアーティストが集まるなど、多文化の人が暮らしやすいまち
- ⑦ 誰もが公共施設を便利に利用できる
- ⑧ 移動手段の充実で、地域内を移動できる便利に
- ⑨ 市の広域力を活かし、市民と市がまちづくり情報を共有する
- ⑩ 色の統一、アースカラー
- ⑪ 市民の感性と行動を促し、育て、自然やまちを大切にしながら暮らしやすいまち
- ⑫ 景観に合ったサインやデザインのマッシュアップで新しいまちを作る

資源

芦屋のハード・ソフト両面の資産・資源を活かすための視点

人材

自然

ハード

文化

産業

カード内容 (資源):

- たくさんの人の中で力を発揮できる子ども
- いろいろな地域で(様々な)活躍ができる子
- 芦屋の著名人を活用し、発信する
- 元氣・活発で伸び伸びする子
- 芦屋川を人々の居場所の場として活用
- 自然との共生
- 山、川、海が繋がった芦屋の自然を活かした交流の場を主出し、魅力を発信
- 施設を連携を進め、市民が参加し、楽しめる美術館・博物館にする
- 人の命を守るためのハードはお金をかけても整備する
- 「暮らしやすさ」を確保するためのハードとして活用
- スクラップ&ビルドではなく、リノベーションで古くて良いものを活かす。まちの価値を高める
- ハードはお金と時間がかかるので、ソフト面ですくすくかかる
- みんなが活用できる場(施設)となるようにする
- 継続的に暮らしやすさを保つため、技術で新しい産業らしさをつくる
- 「まちのまちなみ」をブランドにし、地域の価値を高める
- 芦屋の伝統をもつ大切に
- 産業らしい産業がある

未来

少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりについての

教育

文化

行政

多様性

産業

カード内容 (未来):

- 自分で考えて行動する子
- 主が学びが日本一進んでいるまちにする
- 伝統、文化を市民へ発信し、まちの魅力をさらに高め、おもしろいイメージを伝える
- 市民や事業者が芦屋の文化とまちを併せて楽しむことが出来る仕組みや仕組みをつくる
- 財政を豊かにするために、産業を取り込む意識をみんながもつ
- 行政・議員・自治会・一般市民との関係の強化
- 行政が積極的育成のHUBになり、市民や事業者、地域組織との協働を進める
- 行政が積極的育成のHUBになり、市民や事業者、地域組織との協働を進める
- 多様な人材を育てる
- 市民の個性、強みを活かす教育で、芦屋に専攻を持つ市民が育ち、まちを盛り立ててくれる
- 未来の子どもの可能性を広げる教育環境をつくる
- 市民も市の財政状況を理解する必要がある
- 市民と市の関係のつながりを深めるとともに、住民の声を聞き、透明な意思決定プロセスを確立
- 多様な産業など、働きたい人がおもしろい環境で活躍できるまち
- 個人の商店、起業を応援できるまち
- 芦屋らしい小さい店、個人店が活躍できる

A

視点

将来の方向カードを分類

あるべき姿

人のつながり

市民間の交流と活動や地域力に関する視点

児童(若者) 小中学生や高校生が交流し、活動できる環境にする
コミュニケーションのとれる子

環境

市民が楽しめる機会づくり
山、川、海が開けた戸屋の自然を活かした交流の場を生み出し、魅力を発信
戸屋川を人々の賑わいの場として活用

コミュニティ

大学生と子どもとの世代間交流
大人の発達など、やりがいとて集まる世代をこえたコミュニティづくり
顔が見える・顔が分かる状態にする
草履していない若者も入りやすいコミュニティづくり

市民参加

ボランティアしたい人と求めたい人をつなぐ
映画と協力の仕組み

行政のバランス

意識の浸透を進め、市民が参加し、楽しめる事業展開・特効薬にする
市民や来訪者が戸屋の文化とまちを併せて楽しむことができる仕組みやしかりをつくる
まちの賑わいのような場を作り、人々の繋がりをつくるきっかけとする
文化との共生でアーティファクトが生まれるなど、多文化の人が暮らしやすいまち

市民と市職員が気軽に話し合える関係性/場をもつ
市職員は市民の声に耳をかたむけ、市民は市長を信頼する姿勢を持つ
行政・議員・自治会・一般市民との関係の強化
行政と住民の間をつなぐ開かれた自治会にする
誰もが参加しやすい自治会の運営

人々のつながりを通じて(戸屋で)

市と行政の「関係」を温かい絆の場にする(行政)

暮らしやすさ

安全・安心や住環境、生活利便性に関する視点

色の統一、アースカラー
隣町柱化の長寿と短寿のバランス
戸屋にあったサイズやデザインのマンションづくりで新しい人も受け入れる
南北の緑地のバランス

街並み

自然との共生
防災の観点を持ちながら、市民の暮らしと折り合うように自然の維持管理を進める
大人に災害のこと、精神・交通大震災のことを伝える
人の命を守るためのハード面はお金をかけても
忘れないように、危険性を伝えていく
古いものを残しながら、安全・安心・暮らしを支える

公共(若者)

移動手段の充実で、地域内を移動できる修利なまちに
商業と市がタイアップしてJR戸屋駅を中心として回遊できるまちにする
誰もが公共施設を便利に利用できる

市民全体に知る機会を提供する
市の広域力を活かし、市民と市がまちづくり情報を共有する
市がどのような方向に進もうとしているのかもつわりやすくするとともに市民にも広く周知する

情報発信者有

居が楽しめる、子どもが来なくなる子育てづくり
遊び場がたくさんあり子どもたちが自由に遊べる環境
指で

いろいろなバックグラウンドの人が、共生されている
学びや出会いにより、自分と異なるものを知り、理解、共感する
住居感

健康
* 芦屋の良さを活かして誰にとっても安心・安全でコンパクトな暮らしの街
安心して医療にかかろう
運がよくなった

資源

芦屋のハード・ソフト両面の資産・資源を活かすための視点

キャリア教育が日本一進んでいるまちにする
未来の子ども達の可能性を広げる教育環境をつくる
いろいろな地域で(様々な)活躍ができる子
元氣・若者で仲にはまりすぎない子
地域に想い入れのある子
小さいころから文化に触れる

自分で考えて行動する子

自分で物事を考えられる子
ITやゲームとうまくつきあっている子
多様な価値観を持つ子
たくさん人の手助けを覚悟でできる子ども

人材教育、未来のため

文化

スクラップ&ビルドではなく、リノベーションで古いものを活かし、まちの価値を進める
戸屋の伝統をもつ大切にする
戸屋の著名人を活用し・発信する
ハードはお金と時間がかかるので、ソフト面ですぐにとりかかる
市民が文化を楽しみながら文化を育てられるように

* 今ある良さを皆が共有し、育んで循環させます

未来

少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりについての視点

大人と交流しながら地域で子どもが育ち、その子どもたちが大人になった地域の子どもを育てる
戸屋の個性、強みを活かした教育で、戸屋に愛着を持たせ、将来戸屋に帰ってくる子どもを育てる

FCTで育つ若者 共生

伝統、文化を市民へ発信し、まちの魅力を伝えるにつなげ、お金持ち一辺倒の戸屋へのイメージを変える
「共生のまち」をブランドにし、地域の価値を進める
継続的に戸屋らしさを保つため、技術で新しい戸屋らしさをつくる

機能・方針(住居)

行政が情報受発信のHUBになり、市民や民間企業、地域組織との関係を深める
市は自治体内の機能的つながりを深めるとともに、住民の声をきき、透明な意思決定プロセスを確立
市民の個性と行動力を生かし、育て、自然やまちの楽しみなどを維持管理していく

* 多様な価値観を尊重し、金銭市場の共生、FCTの活用、住居のイノベーションを起すこと

産業

働かざる者、食ふべからず

働かざる者や高齢者の雇用を活かして、産業や雇用市場など活発な場がある
戸屋らしい産業がある
みんなが活用できる場(施設)となるようにする
高齢者や主婦など、働きたい人がそれぞれのスタイルで活躍できるまち
様々な施設(園地、高齢、保育所)を地域の1つの資源として活用

新しい働き方生活スタイル 共生

個人の商店、起業を応援できるまち
戸屋らしい小さい店、個人店が活躍できる
刺激を創かすための産業を取り込む意識をみんながもつ
市議員の財政状況を理解する必要がある

産業 財政

B

視点	将来の方向カードを分類	あるべき姿
<p>人のつながり</p> <p>市民間の交流と活動や地域力に関する視点</p>	<p>既存コミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰もが参加しやすい、負担のかけられない自治会の運営 コミュニケーションのとれる子 いろいろな地域で(様々な)活躍ができる子 たくさんの中での力を発揮できる子ども <p>学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 話が楽しめる、子どもが楽しくなる学習づくり 小中学生や高校生が交流し、活躍できる地域にする 志望と夢をもち、世代間交流 <p>新しいコミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> 定住してない人や若い人を入りやすいコミュニティづくり 大人のボランティアなど、やりたいことで集まる世代をこえたコミュニティづくり 定住の課題のような集まる場を設け、人々の繋がりをつくるきっかけとする 学びや出会いにより、自分と異なるものを知り、理解、共感する 夢と活力の仕組み ボランティアしたい人とふれあい(多様な人をつなぐ) 市内外のコミュニティ(ネット活用)などとの積極的活用 	<p>① 新しいコミュニティと古いコミュニティの融合⇒イノベーション / 若者男女を問わず(世代横断)</p> <p>② 新たな場(まちの縁側)づくり</p> <p>小・中・高・大学生のさらなる交流</p>
<p>暮らしやすさ</p> <p>安全・安心や住環境、生活利便性に関する視点</p>	<p>防災</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災の備えを持ちながら、市民の暮らしと折り合うように自然の備えを活かす ハードはお金と時間がかかるので、ソフト面をよくにとりかかろう 忘れないうちに、危険性を伝えていく 大人に被害のこと、防犯・避難訓練のことを伝える <p>多様なニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者や主婦など、働きたい人がそれぞれのスタイルで活躍できるまち 働きながらの子育てを充実 障がいや高齢者の暮らしを助けて、住環境や雇用の場など活躍できる場がある 市の広域力を活かし、市民と市がまちづくり情報を共有する 市民が楽しめる機会づくり 移動手段の充実で、地域内を移動できる便利なまちに 誰もが公共施設を便利に利用できる 商業と市がタイアップして、市民生活を中心として運営できるまちにする <p>多様なスタイル</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいや高齢者の暮らしを助けて、住環境や雇用の場など活躍できる場がある 市の広域力を活かし、市民と市がまちづくり情報を共有する 市民が楽しめる機会づくり 移動手段の充実で、地域内を移動できる便利なまちに 誰もが公共施設を便利に利用できる 商業と市がタイアップして、市民生活を中心として運営できるまちにする <p>いろいろなバックグラウンドの人が、共生されている</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化との共生でアーティストが集まるなど、多様な人が暮らしやすいまち 	<p>① 高齢者・主婦・障害者など誰もが多様なスタイルで活躍できる多様性と包摂性</p> <p>② 情報共有(防災/コミュニティ/まちづくり/日常生活)強化</p> <p>安全なまち</p>
<p>資源</p> <p>芦屋のハード・ソフト両面の資産・資源を活かすための視点</p>	<p>自然環境、文化</p> <ul style="list-style-type: none"> 芦屋の著名人を活用し、発信する 自然との共生 芦屋川を人々の集わいの場として活用 山、川、海が揃った芦屋の自然を活かした交流の場を主力とし、魅力を発信 建設の過程を、市民が参加し、楽しめる美術館・博物館にする 芦屋の伝統をもちつと大切に 遊び場がたくさんあり子どもたちが自由に遊べる環境 市民が文化を楽しみながら文化にふれるように <p>パワースポット</p> <ul style="list-style-type: none"> 無電柱化の街並と街路のバランス 色の統一、アースカラー 市民の個性と行動力を主とし、自然やまちをのびのびと育てる 自然との共生 市民が文化を楽しみながら文化にふれるように <p>ハード景観</p> <ul style="list-style-type: none"> 小さいころから文化にふれる 市民が文化を楽しみながら文化にふれるように <p>ソフト景観</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の個性と行動力を主とし、自然やまちをのびのびと育てる 自然との共生 市民が文化を楽しみながら文化にふれるように 	<p>あそびのリミテーションをリカサ</p> <p>芦屋らしい小さな店、芦屋らしい景観、芦屋らしい自然と文化、芦屋オリジナル(どう話しか?)</p> <p>① 命を守るためのハード面はお金をかけて整備する</p> <p>② 命を守るためのソフト面は「障がい、高齢、子育て」を地域の1つの資源として活用</p>
<p>未来</p> <p>少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりについての視点</p>	<p>教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 未来の子どもの可能性を広げる教育環境をつくる 多様な価値観を受けとれる子 元気・活発で伸びやかな子 1下ゲームとうまにつきあっている子 多様な価値観を受けとれる子 障がいや高齢者の暮らしを助けて、住環境や雇用の場など活躍できる場がある 市の広域力を活かし、市民と市がまちづくり情報を共有する 市民が楽しめる機会づくり 移動手段の充実で、地域内を移動できる便利なまちに 誰もが公共施設を便利に利用できる 商業と市がタイアップして、市民生活を中心として運営できるまちにする <p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政が情報発信のHUBになり、市民や民間企業、地域組織との協働を深める 行政・議員・自治会・二番市民との関係の強化 市民は市民の立場でつながりをもつとともに、市民の声をきき、透明な意思決定プロセスを確立 市民と市職員が気軽に話し合える関係性/場をもつ 市民も市の財政状況を理解する必要がある 市民全体に知る機会を提供する 市民がどのような方向に進もうとしているのかをしっかりとわかちあうとともに市民にも広く伝える 	<p>① 命を守るためのハード面はお金をかけて整備する</p> <p>② 命を守るためのソフト面は「障がい、高齢、子育て」を地域の1つの資源として活用</p> <p>③ 生き生きとしたまちをつくるキャリア教育(限外)重視</p> <p>各ステークホルダー「行政/議員/一般市民/民間企業/地域組織等、オール芦屋で」</p> <p>④ 透明な意思決定プロセス</p>

視点	地域コミュニティ	将来の方向カードを分類	市・まち自治会	あるべき姿
<p>人のつながり</p> <p>市民間の交流と活動や地域力に関する視点</p>	<p>多様な価値観を持つ子</p> <p>地域に思い入れのある子</p> <p>たくさんの人の中で力を発揮できる子ども</p> <p>コミュニケーションのとりえる子</p> <p>自分で考えて行動する子</p> <p>学びや出会いにより、自分と異なるものを知り、理解、共感する</p> <p>ITやゲームとうまくつきあっている子</p> <p>元気・活発で仲にはまりすぎない子</p> <p>いろいろなバックグラウンドの人が、共生されている</p>	<p>多様な価値観を持つ子</p> <p>地域に思い入れのある子</p> <p>たくさんの人の中で力を発揮できる子ども</p> <p>コミュニケーションのとりえる子</p> <p>自分で考えて行動する子</p> <p>学びや出会いにより、自分と異なるものを知り、理解、共感する</p> <p>ITやゲームとうまくつきあっている子</p> <p>元気・活発で仲にはまりすぎない子</p> <p>いろいろなバックグラウンドの人が、共生されている</p>	<p>市民と市職員が気軽に話し合える関係性/場をもつ</p> <p>市は市民の集いのつながりをつくるために、住民の声をきき、透明な意思決定プロセスを確立</p> <p>行政・議員・自治会・一般市民との関係の強化</p> <p>市職員は市民の声を耳をかたむけ、市民は市を理解する姿勢を持つ</p>	<p>「13人な世代か」と心んり、集い、3本あうこで</p> <p>多様な価値観をもち、</p> <p>活発な流動・発展を行うコミュニティをつくる(なる)</p> <p>(=新陳代謝のみ)</p>
<p>暮らしやすさ</p> <p>安全・安心や住環境、生活利便性に関する視点</p>	<p>忘れられないように、危険性を伝えていく</p> <p>ハードはお金と時間がかかるので、ソフト面にすぐにとりかかる</p> <p>人の命を守るためのハード面はお金をかけても整備する</p>	<p>南北の規制のバランス</p> <p>定住していない人や若い人も入りやすいコミュニティづくり</p> <p>子育てに合ったサイズやデザインのマンションづくりで新しい人も受け入れる</p> <p>誰もが公共施設を便利に利用できる</p> <p>移動手段の充実で、地域内を移動できる便利に暮らし</p> <p>働きながらの子育てを充実</p> <p>遊びが楽しめる、子どもが来たくなる子育て</p>	<p>色の統一、アースカラー</p> <p>無電柱化の長所と短所のバランス</p>	<p>人と人とのつながりを活かし、子供から高齢者、全ての人にやさしく、住み続けたい街をデザインする。</p>
<p>資源</p> <p>芦屋のハード・ソフト両面の資産・資源を活かすための視点</p>	<p>自然との共生</p> <p>山、川、畑が持つ芦屋の自然を活かした交流の場を生み出し、魅力を発信</p> <p>芦屋川を入りの賑わいの場として活用</p>	<p>映画と協力の仕組み</p> <p>市民の感性と行動力を生かし、自然やまちの美しさなどを維持管理していく</p> <p>小さいころから文化にふれる</p> <p>芦屋の伝統をもちつ大切にする</p>	<p>商業と市がタイアップしてJR芦屋駅を中心として回遊できるまちにする</p> <p>業種の連携を進め、市民が参加し、楽しめる業種間・地域間にする</p> <p>遊び場がたくさんあり子どもたちが自由に遊べる環境</p> <p>様々な施設(障がい、高齢、保育所)を地域の1つの資源として活用</p> <p>みんなが活用できる場(施設)となるようにする</p>	<p>古くからある文化・芦屋のイメージを残しつつ、新しいものを受入れ</p> <p>「芦屋をほほに思い出す」新しい 芦屋をつくる</p>
<p>未来</p> <p>少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりについての視点</p>	<p>未来の子どもの可能性を広げる教育環境をつくる</p> <p>キャリア教育が日本一進んでいるまちにする</p> <p>芦屋の個性、強みを活かした教育で、芦屋に自信を持ち、将来芦屋に定住してくる子どもを育てる</p> <p>大人と交流しながら地域で子どもが育ち、その子どもたちが大人になつたら地域の子どもを育てる</p>	<p>古いものを残しながら、安全・安心・暮らしを変える</p> <p>高齢者や主婦など、暮らしたい人がそれぞれのスタイルで活躍できるまち</p> <p>スクラップ&ビルドではなく、リノベーションで古くて良いものを活かし、まちの価値を高める</p> <p>文化との共生でアーティストが集まるなど、多文化の人が暮らしやすいまち</p>	<p>行政が情報受容体のHUBになり、市民や民間企業、地域組織との協働を促める</p> <p>「共生のまち」をブランドにし、地域の価値を高める</p> <p>障がい者や高齢者の長所を活かして、環境作りや雇用創出と活躍できる場がある</p> <p>財政を豊かにするための、産業を取り込む意識をみんながもつ</p>	<p>市民と行政がつながり、活気あふれ、希望の見えるまちを創造する</p> <p>芦屋をよく知ること(小情報発信ポスター)</p>

D

視 点	将来の方向カードを分類	あるべき姿
<p>人のつながり</p> <p>市民間の交流と活動や地域力に関する視点</p>	<p>将来の方向カードを分類</p> <p>① 基盤 住居・コミュニティ 誰もが参加しやすい、負担の少ない自治会の運営 行政と住民の関わりを強く開かれた自治会にする 行政・議員・自治会・一般市民との関係の強化</p> <p>② コミュニティのあり方 誰が登る・誰が下がる 参加と協力の仕組み 定住していない人や若い人も入りやすいコミュニティづくり 学びや出会いにより、自分と異なるものを知り、理解、共感する 市民が選ばれる機会づくり</p> <p>③ コミュニティの方向性 コミュニケーションのとれる子 大人の即応性など、やりたいことで集まる世代をこえたコミュニティづくり 大学生と子どもとの世代間交流 まちの緑地のような集える場を作り、人々の繋がりをつくるきっかけとする ボランティアしたい人と小れあい集まる人をつなぐ</p>	<p>既存のコミュニティを含め、基盤とほろコミュニティを強化</p> <p>多様な人々の集まる場、関係性をまぎ、集いのコミュニティを構築</p>
<p>暮らしやすさ</p> <p>安全・安心や住環境、生活利便性に関する視点</p>	<p>④ 基盤 安全・安心 古いものを残しながら、安全・安心・暮らしを変える 大人に災害のこと、震災の経験を持ちながら、市民の暮らしと折り合うように自然の維持管理を進める 忘れないうちに、危険性を伝えていく</p> <p>⑤ 情報力 市民全体に知る機会を提供する 市の広域力を活かし、市民と市がまじりつくり情報を共有する</p> <p>⑥ 子育て 誰もが楽しめる、子どもが来なくなる子育てづくり 小中学生や高校生が交流し、活躍できる地域にする 働きながらの子育てを充実</p> <p>⑦ 多様性 高齢者や主婦など、働きたい人がそれぞれのスタイルで活躍できるまち 働きがいや高齢者の居場所を活かして、居場所や雇用の場など活躍できる場がある みんなが活用できる場(施設)となるようにする 文化との共生でアーティストが集まるなど、多文化の人が暮らしやすいまち</p> <p>⑧ 利便性 移動手段の充実で、地域内を移動できる環境をさらに 誰もが公共施設を便利に利用できる</p>	<p>みんなに便利なまち 安全・安心・暮らしやすさ (情報・通信・共有) 情報力のあるまち 充実した子育てのできるまち</p>
<p>資源</p> <p>芦屋のハード・ソフト両面の資産・資源を活かすための視点</p>	<p>⑨ 教育 多様な価値観を持つ子 キャリア教育が日本一進んでいるまちにする 未来の子どもの可能性を広げる教育環境をつくる 自分で考えて行動する子 自分で物事を考えられる子 いろいろな地域で(様々な)活躍ができる子</p> <p>⑩ ハード 無電柱化の長所と短所のバランス 市民の感性と行動力を生かし、育て、自然とまちが自然の恵みを受け、自然環境を維持していく 芦屋にあったサイズやデザインのマンションづくりで新しい人も受け入れる 緑地の活用を進め、市民が参加し、楽しむ場所を創出する 人の命を守るためのハード面はお金をかけても整備する スクラップビルドではなく、リノベーションで古いものを活かす、まちの魅力を高める</p> <p>⑪ ソフト文化 色の統一、アースカラー 芦屋川を人々の賑わいの場として活用 市民や来訪者が芦屋の文化とまちを併せて楽しむことが出来る仕組みやきっかけをつくる 芦屋の著名人を活用し、発信する 芦屋の伝統をもちつ大切にする 小さいころから文化にふれる</p>	<p>⑫ 産業 芦屋らしい小さい店、個人店が活躍できる 芦屋らしい産業がある 商業と市がタイアップして、芦屋駅を中心として回復できるまちにする 個人の商店、起業を応援できるまち</p> <p>古い良ものを活かして自然と共生できるハード面の整備 芦屋らしい文化・産業を育む</p>
<p>未来</p> <p>少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりについての視点</p>	<p>⑬ 持続可能なまち(財政面) 財政を豊かにするため、産業を取り込む環境をみんながもつ 市民も市の財政状況を理解する必要がある 継続的に芦屋らしさを保つため、技術で新しい芦屋らしさをつくる</p> <p>⑭ 芦屋の魅力を 「民生のまち」をブランドにし、地域の価値を高める 山、川、海がもたらした芦屋の自然を活かした交流の場を生み出し、魅力を発信 伝統、文化を市民へ発信し、まちの魅力づくりにつなげ、お金持ち一辺倒のまちへのイメージを変える</p>	<p>教育の設備と人の充実</p> <p>芦屋の教育、財政力、魅力を充実させ、人が住みたくなるまち</p> <p>↓ 持続可能なまち</p>
	<p>⑮ 行政のあり方 市は市民との関わりを深めるとともに、住民の声をきき、透明な意思決定プロセスを確立 市職員は市民の声をきき、市民は市を信頼する姿勢を持つ 行政が環境学習のHUBになり、市民や民間企業、地域組織との協働を進める</p>	<p>市民と行政のキックボール</p>

E

視点

人のつながり

市民間の交流と活動や
地域力に関する視点

将来の方向カードを分類

*市民間の
市民と行政との参画・協働*

- 市民全体に知る機会を
提供する
- 市民が楽しめる・遊べる
機会づくり
- まちの賑わいのような集まる場
を作り、人々の関わりをつく
るきっかけとする
- ボランティアしたい人と
ふれあいを求める人を
つなぐ
- 大人に言葉のことで、
精神・道徳大震災のことを
伝える
- 東北の復興のバランス
- 市民と行政との関係の強化
- 行政・議員・自治会・
一般市民との関係の強化
- 行政が優先受審者のHUBに
なり、市民や民間企業、地域
組織との協働を促める
- 市民と市がまちづくり
情報を共有する
- 参画と協力の仕組み
- 行政と市民の関わりをつなぐ
開かれた自治会にする
- 市民と市職員が互いに
話し合える関係性/場
をもつ
- 市職員は市民の声を耳を
かたむけ、市民は市を
理解する姿勢を持つ

あるべき姿

79種79様は立場の人々が顔の見える場として
、気軽に話合える関係性がうまれ、街
通し

暮らしやすさ

安全・安心や住環境、
生活利便性に関する視点

暮らしやすさ

*親睦
の場を
環境*

- 居が楽しめる、子どもが
来なくなる子育てづくり
- 遊び場がたくさんあり
子どもたちが自由に
遊べる環境
- 働きながらの
子育てを共済
- 移動手段の充実で、
地域内を移動できる
便利なまちに
- 誰もが参加しやすい
負担のかからない
自治会の運営
- 無電柱化の長所と短所の
バランス
- 戸建に合った子育て
デザインのリノベーションで
新しい人も受け入れる
- 子育て支援など、働きたい
人がそれぞれのスタイルで、
活躍できるまち
- 文化との協働でアーティスト
が集まるなど、多文化の人が
暮らしやすくなる
- いろいろな
バックグラウンドの人が、
共生されている
- 99文化共生
ハード・ソフト
- 誰もが活用できる場
(施設) となるようにする
- お金をかけて
自然災害に
文化の
優先順位を
つける
- 古いものを残しながら、
安全・安心・暮らしを
支える
- 自然との共生
- 自然との共生に押し合い、つりながら、
安心安全は環境のもとと木々のスタイルで、
活躍できる街 近隣へ高齢者、障がいのあり、子ども
- 自然の感性と行動力を
生かし、育て、
自然やまちの美しさなどを
維持管理していく

資源

芦屋のハード・ソフト両面の
資産・資源を活かすための視点

資源

*未来の
人の
つながり*

- 自分で考えて行動する子
- 自分で物事を
考えられる子
- コミュニケーション
のとれる子
- ITやゲームとうまく
つきあっている子
- いろいろな地域で
(様々な) 活躍ができる子
- 元気・活発で仲が
はまりやすい子
- 多様な価値観
を持つ子
- たくさんの人の中で力を
発揮できる子ども
- ソフト -
小中学生や高校生が
交流し、活躍できる
地域にする
- 市民が文化を楽しみながら
文化を育てられるように
- 市民が文化を愛し、自分から
文化を育てられるように
- 小さいころから
文化に触れる
- 芦屋の伝統を
もっと大切にする
- 市民が文化を愛し、自分から
文化を育てられるように
- 年齢や世代が異なる文化と
ちを併せて楽しむことが
できる仕組みづくり
- 継続的に芦屋らしさを
保つため、技術で新しい
芦屋らしさをつくる
- 芦屋の著名人を活用し、
発信する
- 地域の連携を進め、市民が
参加し、楽しめる
美術館・博物館にする
- 山、川、海が育った芦屋の
資源を活かした交流の場を
生み出し、魅力を発信
- スクラップ＆ビルドではな
く、リノベーションであって
良いものを活かす。まちの顔
像を磨く
- 財政を豊かにするため、
産業を取り込む意識を
みんながもつ
- 芦屋らしい小さい店、
個人店が活躍できる
- 個人のお店、起業を
応援できるまち
- 商業と市がタイアップして
JR芦屋駅を中心として
回遊できるまちにする
- 芦屋らしい産業がある

未来

少子高齢化・人口減少など
社会情勢の変化への対応や
持続可能なまちづくりについての視点

未来

*ハード
現実整備*

- 未来の子どもの可能性を
広げる環境づくり
- キャリア教育が日本一
進んでいるまちにする
- 伝統 文化を市民へ発信し
まちの魅力を伝える。お金持ち一辺倒の芦屋への
イメージを変える
- 「共生のまち」をブランドに
し、地域の魅力を高める
- 芦屋の個性、強みを活かした
教育で、芦屋に愛着を持ち、
経済芦屋に選ばれる子ども
を育てる
- 色んな施設(園が、高齢、
保育所)を地域の1つの
資源として活用
- おもしろい、ダイバーシティ
- 障がい者や高齢者の長所を
活かして、活躍や雇用する
場など活躍できる場がある
- 財政を豊かにするため、
産業を取り込む意識を
みんながもつ
- 芦屋らしい小さい店、
個人店が活躍できる
- 個人のお店、起業を
応援できるまち
- 商業と市がタイアップして
JR芦屋駅を中心として
回遊できるまちにする
- 芦屋らしい産業がある

芦屋のカラーが
活きる街

カラーとは...
色・特色

視点	将来の方向カードを分類	あるべき姿
<p>人のつながり</p> <p>市民間の交流と活動や地域力に関する視点</p>	<p>ボランティヤしたい人と 求めたい人を つなぐ</p> <p>学びや出会いにより、 自分と異なるものを 知り、理解、共感する</p> <p>本住していない人や若い人も 入りやすい コミュニティづくり</p> <p>大学生と子どもとの 世代間交流</p> <p>大人と交流しながら地域で子 どもが育ち、その子どもたち が大人になったら地域の子 どもを育てる</p> <p>小中学生や高校生が 交流し、活躍できる 地域にする</p> <p>世代間 交流</p> <p>市民間の交流と活動や地域力に関する視点</p>	<p>多様な価値観と世代間の交流が はかれる仕組みのあるまち</p>
<p>暮らしやすさ</p> <p>安全・安心や住環境、生活利便性に関する視点</p>	<p>市街の個性と行動力を 生かし、自ら 発展させることなどを 維持管理していく</p> <p>誰もが公共施設を 便利に利用できる</p> <p>古いものを残しながら、 安全・安心・暮らしを 変える</p> <p>防災</p> <p>防災の概念を持ちながら 市民の暮らしと折り合うよう に自然の維持管理を進める</p> <p>誰もが安心して暮ら せるまち</p> <p>無電柱化の進捗と歩道の バランス</p> <p>大人に配慮のこと、 避難・災害大震災のことを 伝える</p> <p>おきながらの 子育てを充実</p> <p>市街と市職員が互いに 話し合える関係性/場 をもつ</p> <p>市職員は市民の声を聞き かたむけ、市民は市を 理解する姿勢を持つ</p> <p>市民全体に別な機会を 提供する</p> <p>暮らしやすさに関する視点</p>	<p>有事も視野に入れた地域格差のない公共 施設の配備とそこに官民一体でとくま めるまち</p>
<p>資源</p> <p>芦屋のハード・ソフト両面の 資産・資源を活かすための視点</p>	<p>芦屋の伝統を もつと大切に</p> <p>芦屋らしい産業がある</p> <p>山・川、海が育った芦屋の 自然を活かした交流の場を 生み出し、魅力を発信</p> <p>自然との共生</p> <p>行政</p> <p>財政を豊かにするための、 産業を取り込む環境を みんながもつ</p> <p>行政</p> <p>人が命を守るための ハード面はお金をかけても 整備する</p> <p>行政</p> <p>人が変わる、子どもが 来なくなる子育て</p> <p>未来の子どもの可能性を 広げる教育環境をつくる</p> <p>小さいころから 文化に触れる</p> <p>文化</p> <p>芦屋の著名人を選出し、 発信する</p> <p>文化との共生でアーティスト が暮らすなど、多文化の人が 暮らしやすいまち</p> <p>資源に関する視点</p>	<p>既存の自然や伝統・文化を活かした 産業や教育が充実したまち</p>
<p>未来</p> <p>少子高齢化・人口減少など 社会情勢の変化への対応や 持続可能なまちづくりについての視点</p>	<p>スクラップ＆ビルドではなく、 リノベーションで古くて 新しいものを活かす。まちの 個性を創る</p> <p>芦屋にあったサイズや デザインのマンションづくり で新しい人も受け入れる</p> <p>様々な課題(高齢、高齢 保障)を地域の1つの 資源として活用</p> <p>世代、文化を市街へ発信し まちの魅力を高め、つなぐ おきながらの 子育てを充実</p> <p>多様な価値観 を持つ子</p> <p>キヤリア教育が日本一 進んでいるまちにする</p> <p>いろいろな地域で (様々な)活躍ができる子</p> <p>たくさんの人の中で力を 発揮できる子ども</p> <p>自分でお金を 考えられる子</p> <p>地域に思い入れのある子</p> <p>ITやゲームとうまく つきあっている子</p> <p>自分で考えて行動する子</p> <p>未来に関する視点</p>	<p>"暮らし"を共有でき、創出することができると ともに地域全体で子どもを育てることのできる まち</p>
	<p>市は市内の横のつながりを 深めるとともに 自然の声を聞き、適切な 意思決定プロセスを確立</p> <p>市民も市の財政状況を 理解する必要がある</p> <p>新しいアクティビティ</p>	<p>G</p>

視点	<p>従来の方向カードを分類</p>			あるべき姿
<p>人のつながり</p> <p>市民間の交流と活動や地域力に関する視点</p>	<p>参画と協力の仕組み</p> <p>行政が積極的役割のHUBなり、市民が協働し、担い手の役割を深める</p> <p>行政・議員・自治会、一般市民との関係の強化</p> <p>市民は市長の声に耳を傾け、市長は市民の声を理解する姿勢を持つ</p>	<p>小中学生や高校生が交流し、活躍できる地域にする</p> <p>大学生と子どもとの世代間交流</p> <p>大人と交流しながら地域で子どもが育ち、その子どもたちが大人になったら地域の子もを育てる</p> <p>地域に若い人のある子ども</p>	<p>多様性</p> <p>自治体</p> <p>いろいろなバックグラウンドの人が、共生されている</p> <p>文化と共生でアーティストが多くなる。多文化の人が暮らしやすいまち</p> <p>定住してない人や若い人でも入りやすいコミュニティ作り</p> <p>行政と住民の関わりが深くなった自治会にする</p> <p>誰もが参加しやすい、負担のかからない自治会の運営</p> <p>学びや出会いにより、自分と異なるものを知り、理解、共感する</p> <p>ボランティアしたい人とふれあいを求める人をつなぐ</p> <p>コミュニティ</p> <p>顔が見える・顔が分かる状態にする</p> <p>大人の部活動など、やりたいことで集まる世代をこえたコミュニティ作り</p> <p>まちの條例のような見える場を作り、人々の集りをつくるきっかけとする</p> <p>市民が楽しめる機会づくり</p>	<p>「ほい良い距離感(新しいコミュニティ作り)」「79様性を認め合う」</p> <p>「今あるものも、これからできるものも、79様性を認め合うコミュニティ」</p> <p>「ほい良い距離感(新しいつながり)」</p>
<p>暮らしやすさ</p> <p>安全・安心や住環境、生活利便性に関する視点</p>	<p>安全なまちづくり</p> <p>大人に英語のこと、阪神・淡路大震災のことを伝える</p> <p>山、川、海が繋がった戸屋の自然を活かした交流の場を生み出し、魅力を増進</p> <p>市民が文化を楽しみながら文化を育てられるように</p> <p>古いものを残しながら、安全・安心・暮らしを支える</p> <p>市民も市の財政状況を理解する必要がある</p> <p>市の広域力を活かし、市民と市がまちづくりの役割を共有する</p>	<p>移動手段の充実で、地域内を移動できる便利なまちに</p> <p>市民の個性と行動力を生かし、育て、自然やまちの魅力を最大限に活用していく</p> <p>誰もが公共施設を便利に利用できる</p>	<p>利便性</p> <p>医療・福祉</p> <p>移動手段の充実で、地域内を移動できる便利なまちに</p> <p>市民の個性と行動力を生かし、育て、自然やまちの魅力を最大限に活用していく</p> <p>誰もが公共施設を便利に利用できる</p> <p>子育て支援</p> <p>遊び場がたくさんあり子どもたちが自由に遊べる環境</p> <p>話が楽しめる。子どもが来なくなる子育てづくり</p> <p>働きながらの子育てを充実</p> <p>親子</p> <p>戸屋らしい子育て環境を創出できる</p> <p>伝統、文化を市民へ発信にまちの魅力をにつなげ、お金を持ち一辺の戸屋へのイメージを変える</p>	<p>「双方向コミュニケーション」「発信手段の79様性」「ハードの利便性の向上(移動手段)」「既存ニーズを掘り出す」</p> <p>「みんなの声がとどいて」</p> <p>「実現せよ！」</p>
<p>資源</p> <p>戸屋のハード・ソフト両面の資産・資源を活かすための視点</p>	<p>人のあふれるまちのハード面はお金をかけても整備する</p> <p>戸屋川を人々の憩いの場として活用</p> <p>様々な施設(障がい、高齢、保育所)を地域の1つの資源として活用</p> <p>伝統的に戸屋らしさを保つため、技術で新しい戸屋らしさを創る</p> <p>戸屋にあったサイズやデザインのマンションづくりで新しい人も受け入れる</p> <p>戸屋の歴史を大切に</p>	<p>スクラップ&ビルドではなく、リノベーションで古いものを活かす、まちの価値を高める</p> <p>戸屋の著名人を活用し、発信する</p> <p>市区や東証者が戸屋の文化とまちを併せて楽しむことができる仕組み作りをする</p> <p>戸屋の伝統をもっと大切にする</p>	<p>文化</p> <p>戸屋の著名人を活用し、発信する</p> <p>市区や東証者が戸屋の文化とまちを併せて楽しむことができる仕組み作りをする</p> <p>戸屋の伝統をもっと大切にする</p> <p>戸屋らしい産業がある</p> <p>個人の商店、起業を応援できるまち</p> <p>高齢者や主婦など、働きたい人がそれぞれのスタイルで活躍できるまち</p> <p>働きたい人や高齢者の両方を活かして、環境や雇用環境などを創出できる場がある</p>	<p>「既存資源を時代とニーズに合ったものに変えていく」</p> <p>「文化・産業、イメージなどの既存資源を大事に」</p> <p>「文化・産業、イメージなどの既存資源を大事に時代とニーズに合ったものに変えていく」</p>
<p>未来</p> <p>少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりについての</p>	<p>小さいころから文化にふれる</p> <p>未来の子どもの可能性を広げる教育環境をつくる</p> <p>自分で物事を考えられる子</p> <p>多様な価値観を持つ子</p> <p>自分で考えて行動する子</p>	<p>いろいろな地域で(様々な)活躍ができる子</p> <p>「共生のまち」をブランドにし、地域の価値を高める</p> <p>戸屋の歴史、魂を活かした教育で、戸屋に愛着を持ち、将来戸屋に貢献してくれる子どもも育てる</p>	<p>子ども</p> <p>「共生のまち」をブランドにし、地域の価値を高める</p> <p>戸屋の歴史、魂を活かした教育で、戸屋に愛着を持ち、将来戸屋に貢献してくれる子どもも育てる</p> <p>ITやゲームとうまくつきあっている子</p> <p>活躍</p> <p>高齢者や主婦など、働きたい人がそれぞれのスタイルで活躍できるまち</p> <p>働きたい人や高齢者の両方を活かして、環境や雇用環境などを創出できる場がある</p>	<p>「世代問わず、誰でも活躍できるまちを次世代につなげる」</p>

H